



**トシネルじん肺
国と和解成立、根絶へ政策転換**



首相官邸で、九州原告団長の高濱継男さん（上）と家族会の千明みつ子さん（下）と握手をする安倍首相



二〇〇二年十一月の東京

地裁への提訴から四年七月、トンネルじん肺根絶訴訟が六月一八日、被告の国と原告団の間でトンネルじん肺防止対策に関する合意書の調印が行われました。

合意書の内容は、①原告側が求めていた掘削作業中の換気や粉じん濃度の測定、コンクリート吹き付け作業時の電動ファン付マスクの使用を国が今年度中の使用の義務付けを検討する、②トンネル工事におけるじん肺対策について原告の意見を聞く、③じん肺患者の方々および家族に対し心からお見舞いを表明する、④全国トンネルじん肺根絶訴訟を真摯に受けとめ、今後とも、労働安全衛生性対策を推進する任務を踏まえ、じん肺対策の実施に努める、⑤全国の各裁判所に提起している国を被告とするじん肺被害に関する訴訟の請求を放棄するなどです。

当日の午前、原告団・家族会の代表と安倍総理大臣、柳沢厚生労働大臣との面談

が行なわれました。

船山友衛団長、山崎眞智子家族会会長、小野寺利孝弁護士団長が、安倍首相に和解の決断に踏み切ったお礼と、じん肺根絶対策が確実に実行されることを望むあいさつをしました。

安倍首相は、じん肺でなくなった患者と家族への哀悼を語り、「現場で働いている方々にもしっかりと対策がとられるようにしたい。じん肺の起こらない日本にしていきたいと決意している」と防止対策への約束をしました。

午後は、和解に尽力した自民党の逢沢一郎議員、萩原誠司議員、北村茂男議員と公明党の漆原良夫議員が立会い、厚生労働省、国土交通省、農林水産省、防衛施設庁の大臣（代理）が出席しての合意文書の調印式が行われました。

逢沢議員は「原告のみなさんのがんばりが実った。おめでとう」と語り、また漆原議員も「これからも根絶対策の実行にむけていっ

首相官邸での船山友衛団長のあいさつ

原告団の、団長 船山でございます。

この度は、政府との間で合意書を締結することになり感慨無量です。

私は、昭和29年11月、20歳のときから、トンネル建設工事で働いてきました。

以来、37年にわたり、日本全国のトンネルを、建設してきました。

新幹線トンネル、高速道路トンネル、ダムの水路トンネルなどです。

自分たちトンネル坑夫は、体を張ってトンネルを掘削してきました。

地底から日本の発展を支えてきたことに大きな誇りを持っています。

しかし、トンネル工事の粉じんを吸って、多くの仲間がじん肺で倒れてきました。

一緒に裁判を起した仲間のうち既に250名以上が亡くなりました。

私たち原告の願いは、ただ一つです。

今後、トンネル建設工事から一人もじん肺で苦しむ患者を出してほしくないということです。

今回の政府が約束したことを、確実に守らせていただくように、総理大臣のご指導を是非、よろしくお願い致します。

同・山崎眞智子家族会会長のあいさつ

長野県から来ました全国家族会会長の山崎です。

主人はじめ、多くのじん肺患者は、長くトンネル建設工事現場で働き、不治の病じん肺に罹患しまして家族共々、苦しい日々を送っております。入退院を繰り返す人、酸素吸入器がないと生活できない人、全国で多くの患者がじん肺根絶をと苦しみながら亡くなっております。私の主人の兄3人もじん肺で亡くなりました。

家族会は、微力ながら患者の支えとなり運動してまいりました。今日の良き日を迎えることができまして、大変うれしく感謝しております。

今後じん肺で苦しむ患者がでないよう対策を実行していただくことを強く、強くお願いいたします。

政府との合意成立にご尽力いただいた総理大臣はじめ各議員の皆様は厚くに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



(前頁右上)原告団と面会し、哀悼の意を述べる安倍首相、(前頁左上)官邸での面会后にみんなで。後列右=北村茂男衆院議員、後列左から4人目=萩原誠司衆院議員、5人目=漆原良夫衆院議員、7人目=逢沢一郎衆院議員、(前頁下)午後の合意文書の調印式。(上)合意文書調印式で。うれしさになみさぐむ家族会のみなさん。左から船山文子さん、石川フミ子さん、千明みつ子さん

しょにがんばりましょう」と祝福の言葉を述べました。この席で船山団長は、各省庁の代表に「これからはいっしょにじん肺根絶の施策を考えて行きましょう」と要望を述べました。調印式を終えてからの記者会見では、家族会の山崎会長が、「たたかいたのなかで亡くなった二五〇人の原告の方々の墓前に報告をしたい。首相にまで会えて、哀悼の言葉をいただいで、じん肺根絶対策の約束をし

ていただいたことに感謝申し上げます」と語り、涙をぬぐい、よろこびをかみしめました。

最後に小野寺弁護団長が、「国がじん肺根絶の一步に踏み切ったことは重要。これからの課題は、国が確実に施策を実行してくれるか見ていく必要がある。また、今回は実現しなかったじん肺補償基金についても、引き続き創設に向けた働きかけをしていきたい」と記者団に話しました。